

大阪マイペンライ 第16回総会

2008. 4. 25

PLP 会館大会議室

アジア保育教育交流推進実行委員会

大阪マイペンライ2008年度第16回総会議案

アジア保育教育交流推進実行委員会

活動日誌	2
第1号議案 活動の経過と方針	
1 マイペンライのこれから	3
2 サワディ基金のとりくみ	3
3 来日招聘研修のとりくみ	4
4 スタディツアーのとりくみ	10
5 こどもスタディツアーのとりくみ	11
6 絵本プロジェクトのとりくみ	15
7 アジアのNGO団体などとの連携したとりくみ	16
8 会員拡大のとりくみ、財政確立のとりくみ	16
9 15周年記念事業について	17
10 その他	19
第2号議案 2007年度決算と2008年度予算案	20
一般会計決算と予算	20
サワディ基金収支 絵本プロジェクト収支	21
監査結果	22
第3号議案 2008年度役員体制案について	23
第4号議案 15周年記念事業特別会計の設置について	24

資料

アジア保育教育交流推進実行委員会申し合わせ（規約）	25
大阪マイペンライのあゆみ	26
大阪マイペンライとは	28

記念講演の部

秦 辰也 氏（前SVA専務理事、近畿大学教授）

「タイの少数民族の人々のこと・・・SVAの活動から（仮題）」

表紙写真はバンコク・スアンプルー地区の保育園・図書館の開館式の様子
(左上)開館式でのこどもたちの踊り (右中)セルフヘルプ住宅 (左下)保育園と図書館)

2007年度活動日誌

2007年

- 5月25日(金) 第15回総会
- 5月27日(日) 共生マラソン参加
- 7月7日(土) 子どもツアー第1回学習会
- 7月18日(水) 招聘研修打ち合わせ会議
- 7月19日(木) 子どもツアー第2回学習会
- 7月22日(日)～29日(日) 子どもスタディツアー
- 8月9日(木) 招聘研修打ち合わせ会議
- 9月1日(土) 子どもツアー反省会
- 9月2日(日) 招聘研修オリエンテーション
- 9月1日(土)～15日(土)招聘研修
- 9月3日(月)～5日(水) 招聘研修受け入れ(2カ所)
- 9月5日(水)～7日(金) 招聘研修受け入れ(2カ所)
- 9月10日(月)～12日(水) 招聘研修受け入れ(2カ所)
- 9月13日(木) 招聘研修表敬訪問
- 9月14日(金) 多文化共生セミナー
- 10月5日(月) 07年度第1回実行委員会
報告事項(07年度第15回総会について、こどもツアーについて、招聘研修について)
協議事項(役員の補充について、07スタディツアーの実施について、15周年記念事業について)
- 10月18日(木)～21日(日) 記念事業タイ現地実態調査
- 11月19日(月)～26日(月) 大阪市職民生支部招聘研修
- 11月22日(木) 07年度第2回実行委員会
協議事項(スタディツアーの実施について、15周年記念事業の実施と申請について)
- 11月27日(火)「国際ボランティア貯金助成金」申請
- 11月29日(木) スタディツアー第1回学習会
- 12月6日(木) スタディツアー第2回学習会
- 12月16日(日)～23日(日) タイ・カンボジアスタディツアー

2008年

- 1月28日(月) スタディツアー総括会議
- 2月1日(金) 07年度第3回実行委員会
報告事項(「国際ボランティア貯金助成金」への申請、07スタディツアー)
協議事項(07スタディツアーについて、15周年記念事業について、年間事業計画について、シーカーアジア財団スタッフの受入について)
- 3月14日(金) 第4回実行委員会
報告事項(スアンプルー図書館・保育園開館式)
協議事項(15周年記念事業について、第16回総会について、子どもツアーの日程変更)
- 3月24日(月) 15周年記念・研修事業打ち合わせ会議
- 4月18日(金) 第5回実行委員会
報告事項(「国際ボランティア貯金」配分金の決定について)
協議事項(第16回総会について、15周年記念事業について、役員の交代について)

とりくみ予定

- 4月25日(金) 15周年・第16回総会
- 5月21日(水)～25日(日) 15周年記念バンコク研修事業
- 7月5日(土)～19日(土) 招聘研修
- 7月27日(日)午前出発～8月3日(日) 早朝帰国 子どもツアー

第1号議案 活動の経過と方針

1 大阪マイペンライのこれまでとこれから

大阪マイペンライは1993年4月に結成されて以来、部落解放同盟大阪府連合会、大阪府教職員組合、自治労大阪府本部の3組織を中心としながら、多くの団体・グループ・個人の皆さんの支えをいただき、取り組みを進めてきました。また、日本においてはシャンティ国際ボランティア会（SVA）、タイ・カンボジア・ラオスではドゥアン・プラティープ財団（DPF）やシーカーアジア財団の協力・連携のもと、活動を進めています。

大阪マイペンライ結成の契機は、1990年の国際識字年でした。「国際化」が叫ばれ、「日本の国際貢献」「アジアの中の日本（と日本人）」が大きなテーマになっている中、私たちは、それぞれの団体が反差別・人権擁護の立場で国際交流を進めてきましたが、国際識字年を期に活発化したアジア太平洋各地の識字運動・民衆教育運動との交流が拡大し、草の根の人権教育関係者のネットワークづくりが進められていることに注目しました。そこで私たちは、大阪の部落解放運動や同和保育・教育の経験を積極的に紹介し、タイ・インドシナ地域をはじめとするアジアの民衆教育運動との相互交流・支援を活発化させることを目的に、結成しました。

今、地球上には約10億人の成人識字者（読み書きの機会を奪われた人）とともに、1億人の学校へ行けない子どもたちが存在しています。その大半（4分の3）は、タイ・インドシナ地域をはじめとするアジアの国・地域です。くわえて年間1200万人もの5才未満の幼い子どもたちが、風邪や下痢やはしかや栄養不良、飢餓などで死んでいます。アジアのスラムや農村の子どもたちは、貧困と差別の中で生きる権利すらおびやかされているのです。国連の子どもの権利条約を具体化し、アジアの各地に学校や保育所とともに地域の教育・生活・福祉の環境を整備することが緊急の課題であり、この面でこそ日本の「国際貢献」が求められています。

大阪マイペンライはこれまで、人材育成を目的とした「サワディ基金（奨学金）」の取り組み、結成以来、継続して取り組んできた相互交流プロジェクト（招聘研修、スタディツアー）、翻訳絵本の提供を目的とし、活動が着実に広がっている絵本プロジェクト、5周年事業「保育・教育セミナー」10周年事業「障害児保育・障害者の生活から学ぶワークショップ」、「自立をめざすアジアの子どもたちの国際交流事業」などに取り組み、その成果とネットワークは広がってきています。今年、15周年を迎えるにあたって「国際ボランティア貯金配分金」制度に記念事業への助成を申請し、タイのシーカーアジア財団とともに保育園スタッフに対する研修事業の実施を進めています。

04年12月、インドネシア・スマトラ島沖での大地震、津波によって南タイでも大きな被害を受け、多くの人たちが犠牲となりました。これらの災害に対して緊急の支援を取り組みましたが、とりくみを通じ、タイ国内の少数民族や、被差別マイノリティ、最下層の人々・子どもたちに十分な支援が届いていない現状が明らかになっており、今後も現地の団体とも連携し、取り組みを進めていく必要があります。

こうした状況をふまえ、私たちは、支援する側、される側という一方的なものではなく、一人一人お互いの顔が見える関係、お互いに学びあい相互に助け高めあえる関係として、この間の活動を土台に、より一層の広がり高めをめざし、今後の活動を進めていきます。

大阪マイペンライは2008年4月7日、結成15周年を迎えましたが、これを機に記念事業を実施するため「国際ボランティア貯金」への助成を申請し、3月、配分金の決定をいただきました。この配分金と寄付金、サワディ基金を有効に活用し、タイのシーカーアジア財団と連携して、保育園スタッフを対象とした研修や教材・機器の設置、図書コーナーの設置などの事業を実施することとしました。この15周年を節目の年として、大阪マイペンライはこれまでの活動を振り返り、新たな第一歩をふみだします。

2 サワディ基金のとりくみ

(1) とりくみの経過

サワディ基金は1993年に設立し、94年に支給を開始し、本格的にスタートしました。この基金は、タイのNGOの職員で農村やスラムの保育所・幼稚園で働きながら、夜間の専門学校や大学で学んで保育士・教師などの資格取得を目指す若者たちに対して、年額1万バーツ（約3万円）を支給することでスタートしました。

これまでに、94年に70万円、96年に50万円、98年に50万円、2001年に50万円、2003年に200万円を奨学資金として現地のNGOに送り、運用を委託しました。現時点で、基金は

現地からの報告によると、451289 パーツ (約 1579000 円) 残っています。奨学生が生き生きと活動し、勉学の励んでいる姿を受け止め、この活動を継続していくことの重要性を確認しています。

(2) 財源の確保

この奨学金の財源は、団体会員や個人会員からのサワディ基金に寄せられた寄付や、アジアの農村やスラムの人々の手作りのクラフト販売で得た差益を積み立てて、充当しています。これらの資金を、タイのNGOであるSVA・DPFに運用を委託し、給付しています。引き続き、会員へ協力を呼びかけ、寄付を受け付けるとともに、基金が一定額に達していることから、クラフト販売の差益については、大阪マイペンライ活動全体へ運営資金とします。

(3) 奨学金の給付方式について

これまで多くの方からサワディ基金に協力をいただき、合計で約370万円という多額の基金を留め置いている現状もあり、今後も奨学金の「給付」と言う形によって有効に活用することとします。

(4) 奨学生の選考など基金の運用について

奨学生の選考、奨学資金の運用などについてはSVA (シャンティ国際ボランティア会)・DPF (ドゥアン・プラティープ財団) の協力を得ながら、運用規定に基づいて給付することとします。

(5) サワディ基金の給付の状況

奨学生名簿

所 属	氏 名	学 校 名	課 程
ドゥアン・プラティープ財団	サウエーグ・ヌーティップ	ラチャパットジャンカセーム	大学卒業
ドゥアン・プラティープ財団	ボンサワン・スッタラック	ラチャパットジャンカセーム	大学卒業
シーカーアジア財団	ウィタンユター・ウンジャイ	ラチャパットチェンライ	大学在学
シーカーアジア財団	イシー・サーイスン	シウコンポリハーントラキット	専門1年
シーカーアジア財団	ウィパー・スアガームイアム	シウコンポリハーントラキット	専門1年
ドゥアン・プラティープ財団	パウナー・ルアンマハーモンコン	ラチャパットジャンカセーム	大学在学

(6) サワディ基金の今後の活用について

現在の基金は現地のNGOスタッフへの奨学金として支給していますが、その運用状況を把握し、今後の有効活用のための検討を進めることとします。

15周年記念事業を進めるにあたって、その資金に充当するためサワディ基金を一時取りくずすことを確認しました。

3. 招聘研修の経過と取り組み

第15回招聘研修は、9月1日(土)～15日(土)の2週間、タイ・カンボジアからのゲストを招き実施され、府内各地で交流が展開されました。ゲストは4名で、SVAカンボジア事務所のパルさん、SVA タイランドの松尾久美さんが通訳を担当しました。

カンボジア、タイから事前に大阪での研修希望が届き、その期待に応えようと受入れ組織が集まったの調整会議を開き、受入れ組織内においても細やかな調整をいただき、楽しい交流が展開されました。

①受け入れいただいた団体

- 自治労大阪府本部池田市職員労働組合 (カンボジア)
- 自治労大阪府本部大阪市職員労働組合民生支部 (タイ)
- 大阪府教組枚方市教職員組合 (カンボジア)
- 日教組南河内教職員組合 (タイ)
- 部落解放同盟大阪府連合会高槻・富田支部 (タイ)
- 部落解放同盟大阪府連合会鶴原支部 (カンボジア)

②2006年大阪マイペンライ招聘ゲストプロフィールと研修希望について

	タ イ		カンボジア	
通訳同行	松尾久美(SVAタイランド スタッフ) 大阪マイペンライ運営委員 2007年2月 SVA入職		チェア・パル (通訳:カンボジア人 男性) 1999年文部科学省の奨学金を受け来日 関西国際日本語学校卒業 東京工科専門学校卒業 2002年7月 SVA入社	
名前	チャリッサー・ナムパ イロー (プイ) 27歳 女性	ノンラック・ブンセーン (ノイ) 29歳 女性	ハム・ヴィチェット 男性	ユン・ヴィスナー 男性 1965年生まれ

職務	シーカアジア財団 (SVA 現地法人) クロントイ図書館スタッフ・スタッフ歴 4 年目 2005 年 SAF 図書館スタッフとして活動開始。 クロントイ図書館で子どもからの人気は絶大。	ドゥアン・ プラティープ財団 経理スタッフ・スタッフ 歴 13 年目 1995 年より同財団で経理課で事務、副主任を経て現在主任職。	シャンティ国際ボランティア会カンボジア事務所 伝統・文化事業課副調整員 1994 年入職 カンボジア・タイ国境の難民キャンプで活動	シャンティ国際ボランティア会カンボジア事務所 学校建設事業課調整員 1995 年入職 国連難民高等弁務官事務所、 国連カンボジア暫定統治機構で働く
研修希望	<p>《タイ》 チャリッサー・ナムパイロー 大阪での図書館視察はもちろんのこと、子どもに関する施策・施設にも強く関心を持つ。 ①愛読書の国である日本での子どもたちへの読書推進の方法を学びたい ②子どもと楽しめる工作及び活動を学びたい（できればワークショップなど） ③手作り絵本のワークショップの受講をしたい ④保育所・学校・図書館などの見学を通じて子どもたちの生活及び教育状況を知りたい ⑤日本の子どもたちの余暇の過ごし方を知りたい ノンラック・ブンセーン ①子どもたちの更生を目的とした活動を学びたい ②保育園・小学校などの運営手法及び保育士・教師の役割を学びたい ③保育・教育分野に、文化がいかに取り入れられているかを知りたい ④保育・教育における指導テクニックを学びたい ⑤保育・教育現場における衛生環境整備の方法を知りたい</p> <p>《カンボジア》 ハム・ヴィチェット 日本に行くのは初めてなので、日本の文化から教育事情まで幅広く学びたい ユン・ヴィスナー 1. 第二次世界大戦後の日本の復興 2. 初等教育の現状 ・カリキュラム ・教員の生活状況 ・学校の運営管理 3. 日本の文化や伝統 4. 日本人の生活状況</p>			

③大阪マイペンライ招聘研修スケジュール

07年9月1日(土)～15日(土)

	カンボジア	タイ
9月1日 土	7:30 TG627 23:59BKK発 翌日7:30関西空港着(ジャンボタクシー) 13:00 キッズプラザ (松尾久美さん 14:00 子どもツアー反省会 PLP会館)	中島宅ホームステイ
2日	9:00 人権博物館 14:00 オリエンテーション 老松事務所(3団体解放同盟・教組・自治労) 18:00 マイペンライ歓迎会	中島宅ホームステイ
3日 月	自治労・池田市職 宿泊先への迎え(新大阪駅) 10:00～11:30 子育て支援センターホップくん・古江保育所 さつき組太鼓紹介、見学交流、事業取り組みの説明 意見交換 昼食 午後 ラーメン記念館見学・オリジナルカップヌードル作り 池田市立図書館見学 SVAの取り組み紹介・意見交換 夕方 夕食交流会(三平宅で夕食) 宿泊 マスミ荘(ホテル)	自治労・大阪市職民生支部 宿泊先への迎え(新大阪駅 保坂) 9:30～13:00 姫島こども園 <u>子どもとの交流、遊び</u> 12:00 昼食 14:00～17:30 児童院 19:00 夕食・交流会(民生支部執行部) 宿泊 大阪なんばワシントンホテルプラザ
4日 火	9:00 出迎え 池田市立緑丘保育所見学 給食を食べる 12:00～13:00 周辺散策	9:00 ホテルへ出迎え 9:45 野田保育所 <u>子どもとの交流、遊び</u> 12:00 昼食(保育所で)

	午後 5歳児と遊びの交流 <u>カンボジアの遊びを紹介</u> <u>SVAの取り組み紹介・意見交換(プロジェクター)</u> 15:00~16:30 五月山観光(展望台までドライブ) 夕方18:00~20:00 池田市職・同保育部会との歓迎交流会「田まい」 <u>SVAの活動紹介</u> 宿泊 マスミ荘(ホテル)	13:00 野田保育所での交流 19:00 夕食 宿泊 大阪なんばワシントンホテルプラザ
5日 水	9:30 出迎え 午前 五月山児童文化センター見学・プラネタリウム鑑賞 意見交換 12:00 昼食 お好み焼き「牧ちゃん」 13:00 出発・移動・次の組織への引き継ぎ 大阪教組・枚方市教組 14:00 枚方市()待ち合わせ 14:30 枚方教組に到着 休憩後、枚方市立中央図書館(枚方市車塚1-1) 施設の見学、枚方市の図書館制度等について説明 18:30~ 枚方市日本語読み書き教室の見学(枚方市民館2階) ベトナム等から来られた方が日本語の読み書きを週2回学習されています。 夕食 宿泊 野村いくよ枚方市議宅(枚方市香里ヶ丘)	9:00 ホテルへ出迎え 10:00~11:30 中央児童相談所 12:00 昼食 13:00 移動 羽曳野市立植生小学校へ(岡本) 大阪教組・日教組南河内教組 14:00 植生小学校での交流 <u>タイの歌や踊りの紹介</u> 向野支部での交流 <u>SVAの取り組み紹介</u> 18:00 南河内教組・向野支部歓迎会焼き肉パーティー(あいあい保育園の近くの広場) 宿泊 飯野宅
6日 木	朝 枚方市立菅原小学校訪問 2. 3. 4時間目の6年生の授業に参加 <u>カンボジアの遊びや歌を紹介</u> 日本の文化や学校を紹介 給食を一緒に食べます。 午後 枚方市立鍵屋資料館見学(枚方市堤町10-27) 宿場町を中心とした一帯の見学 夕方 枚方市教職員組合役員との交流会 <u>SVAの活動紹介(プロジェクター)</u> 宿泊 野村いくよ枚方市議宅	午前 植生幼稚園(和太鼓演奏) <u>タイの歌や踊りの紹介</u> 午後 青少年児童センター交流・見学 L I C (リック・図書館などの複合施設) 夕食・買い物(杉谷宅) 宿泊 飯野宅
7日 金	10:00 知的障害者通所授産施設「ワークショップ虹」訪問 知的障害者の自立のために行っている「さをり織り」とともに体験し、自立支援活動の概要について説明をします。 時間があれば、福祉工場を訪問します。 昼 福祉工場でつくっている弁当。 移動・子育てしているいろいろ相談センターへ 13:30 絵本ワークショップ 講師:加藤啓子さん(子育てしているいろいろ相談センター) 夕食 松尾宅ホームステイ	08:00 旅館に迎えに行き学校へ(杉谷) 古市南小学校訪問(朝の読書・授業見学・6年生との交流) <u>SVAの活動紹介(プロジェクター)</u> 昼食 移動・子育てしているいろいろ相談センターへ
8日 土	茨木市へ移動 9:00 マイペンライ茨木との交流 松尾宅ホームステイ	
9日 日	フリー 観光 松尾宅ホームステイ	
10日 月	部落解放同盟大阪府連・鶴原支部 9:00 ゲストを迎えに行く。(大阪人権センター) 10:00 鶴原保育所との交流会 12:00 昼食(交流会にて) 13:00 地区内フィールドワーク 15:00 鶴原解放子ども会との交流会 18:00 舛野宅へ 宿泊 舛野宅で宿泊	昼食 松尾 部落解放同盟大阪府連・高槻富田支部 13:00 ゲストを迎えに行く(阪急庄内駅176号線側) 15:00 富田保育所にて参観と保育所の取組紹介(質疑応答) 17:00 富田から高槻に移動 18:00 夕食および交流会(高槻のがんこ) <u>(タイの活動紹介 プロジェクター)</u> 第四中学校区教育連携会議の事務局メンバー 交流会を終えて岡本宅へ移動 20:00 岡本宅へ 21:00 岡本宅へ 宿泊 岡本宅で宿泊
11日 火	10:00 泉佐野市内観光 12:00 昼食 13:00 泉佐野市内観光 15:00 泉佐野市表敬訪問	9:30 富田幼稚園参観 11:00 富田小学校参観 12:15 富田小学校にて給食 13:30 第四中学校参観

	16:00 第三中学校校舎建設工事見学 18:00 野口宅へ 宿泊 野口宅で宿泊	15:00 青少年交流センター参観(放課後活動) 子どもたちと交流 民族衣装で踊りや遊びの紹介をしてほしい 17:00 富田赤小路人権教育推進連絡会議との交流(ふれあい文化センター) <u>タイの夕食づくり</u> 20:30 岡本宅へ 宿泊 岡本宅で宿泊
12日 水	10:00 若者自立塾との交流会 12:00 交流会にて昼食 14:00 次の受け入れ先へ送る。 移動 ホテルへ移動 14:00 ホテルで合流・休憩	9:30 地域のFWをしながら 10:00 小寺池図書館へ 11:30 昼食 12:30 ホテルへ移動(送り) 研修のまとめ、セミナー準備 宿泊 大阪なんばワシントンホテルプラザ
13日 木	8:30 ホテル出発(ジャンボタクシー) 9:15 大阪市役所到着 9:30 大阪市表敬訪問 10:45 大阪府庁到着 11:00 大阪府表敬訪問 13:30 大阪府教組表敬訪問 14:00 セミナー準備・総括会議(老松事務所) 18:30 多文化共生セミナー(エル大阪709) 20:30 夕食 宿泊 大阪なんばワシントンホテルプラザ	
14日 金	9:00 フリー 18:30 お別れ交流会(アピオ大阪 葵の間) 宿泊 大阪なんばワシントンホテルプラザ	
15日 土	8:00 ホテルへ出迎え(稲葉) ジャンボタクシー 9:30 関西空港到着 TG623 11:45 関西空港発 15:35BKK着 11:45 タイ・カンボジアスタッフ帰国	

④ 招聘スタッフの感想・報告文

ユン・ヴィスナー シャンティ国際ボランティア会、カンボジア事務所 学校建設事業課調整員

今回の初めて大阪マイペンライ研修に参加でき、大阪府にある保育所、小学校、図書館、福祉センター、人権文化センター、博物館などを訪問し、子どもと交流をしながらいろいろなことを学ぶことができました。以下はこの2週間の研修で私が感じたことです。

- 教育について**：日本の政府を初め、先生、地域のコミュニティ、子どもの親の努力で日本の未来を担う子どもたちが整った環境でよい教育を受けることができているように感じました。日本の子どもが勇気があり、活発的、明るくて責任感を持つと思います。そして、子どもが豊かな経験を持つ先生と保育士に恵まれていると思います。保育所と小学校に訪問する際に、保育士、先生から大変温かい歓迎といろいろの経験を頂きました。保育所に子ども遊び場、小学校に、スポーツ・グラウンド、音楽室、実験室、図書館などがあり、日本の子どもたちは発展国、特にカンボジアの子どもと比べて、恵まれた環境でよい教育を受けることができると感じました。
- 人権について**：部落解放同盟の報告、大阪人権博物館と障害者福祉センターの見学を通して、日本で起きた差別を実感できました。差別された人々は自分の権利のために苦闘し、代々差別の問題が解決されましたが、今でもまだその差別が残っているようです。博物館で今までの日本であった差別を次代の子どものみせることがとても素晴らしいです。
- 絵本のワークショップについて**：身近なものを使い、創造的な手作りの絵本の作り方を学びました。この素晴らしい技術をカンボジアの小学校の子どもに教えて、カンボジアでも広めたいと思います。
- ホームステイについて**：ホームステイを通して日本の生活の文化と習慣、日本の食事文化を知りました。この2週間では温かいおもてなしを頂き、ホームステイを受け入れて下さった方々に大変お世話になりました。あらゆる美味しいものを食べさせていただきました。ありがとうございました。

最後にもう一度、私たちに日本の教育制度、人権問題、日本の文化などを勉強できるように、この機会を作って下さった大阪マイペンライ、池田市の自治労、枚方市の教職員組合、泉佐野市の部落解放同盟に熱い感謝の気持ちを申し上げます。この2週間で学んだことをカンボジアのために、カンボジアの子どものためにより効率がよい活動をしたいと思います。皆様のご健康とご活躍を祈念します。よろしくお祈りします。

ハム・ヴィチェット シャンティ国際ボランティア会、カンボジア事務所 伝統・文化事業課、調整員

まず、私たちをこの研修に招聘して下さった大阪マイペンライに深く感謝を申し上げます。この2週間でいろいろな所を訪問したり、意見・経験を交換したり、子どもと交流したりをしながら新しいこと（知識？）を学びました。以下は今回の研修で私が感じことです。

1. **教育について**：日本の教育がレベルが高く、教材が豊かであります。日本教育とカンボジア教育が大きな格差がありますが、いくつかの日本で学んだこと特に創造的で簡単な子どもの教材作成をカンボジアに生かせることを気づきました。ゼロ才の子どもから絵本を読み聞かせ、子どもが絵本に興味を持たせるようにすることが……。子どもの教育は本を読むことから始まると思います。すべての小学校では図書室があり、博物館がある小学校もあることに驚きました。カンボジアの子どももそういう豊かな環境で勉強できるようにしてあげたいです。そして、子どもの親が絵本の読み聞かせに楽しさを味わうことの大切さが分かりました。
2. **社会について**：日本の人びとは自分の地域、社会のために努力するという高い意識をもち、障害者、不自由な人などを自立できるように励み、お互いを助け合って、社会に貢献することを感じました。社会福祉の分野ではカンボジアと比べてはるかに先に歩んでいます。社会を開発するには、まず国民一人一人の育ちからであることを今回の研修で感じました。一人一人が自分の責任、自分の社会、自分の文化をよく理解する上で、自分ができることを社会に貢献することです。
3. **文化について**：日本では各地に自分の文化、歴史を次代の子どものに伝えるいろいろな博物館があることがとてもいいです。過去の遺産がなければ、発展することができないと思います。日本の人びとが愛国心があり、肩を組んで国家のために尽くしたと感じました。

そして、ホームステイを通して日本の日常生活を知り、貴重な体験でした。または、大阪人権博物館と部落地域の見学で日本の昔にあった差別を知りました。

地域あるいは社会を発展させるには、例え外からの援助があっても、その地域・社会に住んでいる人々の努力がなければできないと思います。外の援助というのは永続ではなく、やはりこの社会の人びとが自分で尽くさないといけないです。いくら資源が豊かであったも、人材がないと何にもなりません。

この待ちに待ったこの機会、実際に日本の文化に触れ合い、教育制度について学びながら地域の国と交流ができてとても貴重な体験をできたと思います。カンボジアは「百回聞くよりも、実際に自分の目で確かめる」という言葉があります。今回の研修を通して、私はあらゆる新しいこと、創造的な発想を頂き、カンボジアに帰ったらカンボジアの子どものために日本で学んだことを実際に活動に取り組みたいと思います。

最後に改めて今回の研修を調整した大阪マイペンライ、受け入れた池田市の自治労、枚方市の教職員組合、泉佐野市の部落解放同盟に対して、この2週間で温かい歓迎とおもてなしを頂いたことに感謝の気持ちを申し上げます。皆さんのご幸福とご活躍をお祈りします。

ノンラック・ブンセーン（ノイ） ドウアン・プラティープ財団経理課チーフ

大阪マイペンライ招聘研修を終えて

1. 人権に関して

- 部落について歴史・成り立ちから学んだ。解放運動では行政に対して地域内の経済状況、住宅、就労、教育の改善を国の責務と訴えてきた。驚いたのは、部落差別が生まれてから死んだ後までもついてまわるといふことと、現在もこの差別が続いているということ。しかし一方では、差別による就職拒否を防止するため、各地域行政が企業に対して人権研修を行うという具体策を講じている。
- 大阪市立児童院において、なんらかの問題を解決するため家族より離れて生活する子どもたちと交流した。心理・医療などの専門家が常駐していること、生活指導の職員を放課後から就寝までの時間に多く配置し子どもたちの不安を軽減するよう工夫されていることに感心した。しかし、このような職員体制は国の基準からズレがあり、人件費がオーバーしているということも伺った。それでも、当児童院では子どもにとって本当に必要だと思われる現体制を、予算枠内でのやりくりをすることで維持している。このことは、経理を担当する自身もはっとする思いがした。現場のスタッフが要求している活動予算の額面ばかりを見て内容の本質・必要性を見ていないことがないだろうかと思ふ機会となった。
- 児童相談所での幅の広い取り組みにも学ぶことが多かった。特に、さまざまなケースに臨機応変に対応できる体制および諸機関との連携、またその背後にある児童福祉法の整備はタイにも必要であると感じた。プラティープ財団では身体的・性的虐待を受け子どもにキズを負う子どもたち、麻薬からの更生を図る子どもたちの生活施設を設けているが、NGOの独自の活動でありタイ行政の施策の中に明確に位置づけられていないため、社会に復帰する際に問題にぶつかることも少なくないからだ。
- 『自分が大切にされる体験を持ち自分の尊厳を認めてはじめて、他人の尊厳を大切にすることができる』という考えに基づいて保育・教育を実施しているということにも感動した。私自身もたとえ文化または

肌の色・ことば・性別が違って、人間には平等の人権があるという風に考えてきた。今回の研修では人権保育・教育の現場における実践を垣間見ることができたことも、大きな収穫のひとつである。

2. 教育に関して

- ▶ 日本では多数の保育所・小学校では制服着用をしない。これは保育所から大学に至るまで制服で通うタイとの違いである。低年齢の通所・通学時においては、普段の服装での通所・通学は子どもたちが無用に緊張するのを防ぐという効果があるのではないかと興味深く感じた。
- ▶ 『平和と民主主義のこころを育てる』ということが、教育における目標に掲げられている点も新鮮に感じた。タイにおいては、学力向上が唯一の目標になっているように思う。
- ▶ 保護者の収入に応じて保育料徴収額の異なる制度および保育時間の延長などの対応なども、親の視点に立った素晴らしい取り組みである。このような取り組みが為されればスラム地区の親たちがどれだけ助かるだろうか。
- ▶ 保育所や学校において障害児が健常児とともに過ごしていることを知ったときは衝撃を受けた。タイでは、障害児のみの学校がほとんどである。野田保育所では登所してきたダウン症児に対し、友だちが声をかけながら自然に靴を脱ぐのを手伝っている。この姿を見て共生保育の重要性が理解できた。小さな頃から友だちとしてクラスの仲間として一緒に生活することが、成長していく中でどれほど学んでも学び取れない感性を育てることになるのだ。
- ▶ プラティープ財団で勤めてきて、教育とはスラムの子どもたちにとって未来への扉を開くための鍵であると思ってきた。今回の研修では、それが部落地域の子どものや障害のある子どもたちにとっても同じであることがわかった。タイでも日本でも誰もが鍵を手にするのできる社会が理想である。

【最後に】

今回の研修のなかで、ホームステイの経験は私の心に強く残っています。安心感と温かさを常に感じながら過ごすことができました。

大阪マイペンライのみなさま、この機会を与えていただき、本当にありがとうございました。また15年間もの長い間、継続してプラティープ財団のスタッフを日本での研修に呼んでいただきましたこと、代表してお礼を申し上げます。これまでの研修生が大阪で培った知識・経験は財団の運営に大きく活かされています。今後ともよろしく願いいたします。

チャリッター・ナムパイロート シーカアジア財団 (SVA タイランド) 図書館スタッフ

大阪マイペンライ招聘研修を終えて

1. 部落に関して

- ▶ 部落差別を今回始めて知り、本当に驚いた。世界の中で誰もが認める先進国において、このような不合理的な差別が、多くの運動にも関わらず、いまだ根強く残っているというのは理解しがたいことだった。
- ▶ 私の暮らすクロントイスラムは、周囲の人から怖がられたり危険だと思われたりしている。うかつに中に入ると強盗や暴力に遭うのではないかとか、不潔だなどという理由がある。しかし、スラムの住人は一旦クロントイから出ていく、高い教育を受ける、または裕福になると、成功者として認められる。スラム出身者ということで一生差別を受けることはない。この点が部落との大きな差である。
- ▶ 部落地域での研修をし、差別を受けてきた人たちと触れ合ったが、温かく常に気遣ってくれ、人間として素晴らしい人たちであった。地域内の外観や住民の顔では全く見分けられないにも関わらず、ましてや人間性を見もせず差別をする人たちというのはいったいどういう人なのか。怒りを覚えずにはいられなかった。人間の尊厳を奪うような権利は誰にもないはずなのに。

2. 図書館活動に関して

- ▶ 図書館で感心したのは利用者の興味をひくようにコーナー設定がされていること、また全体的に居心地の良い雰囲気づくりを心がけていること。
- ▶ 大人コーナーおよび子どもコーナーなどそれぞれが広くスペースを使っていた。私の小さな図書館では子どもへのサービスを強調しすぎて大人の利用が減ることもある。ゆっくり静かに本を読みたいが、子どもたちが毎日走り回っているので落ち着けないという人もいる。
- ▶ 多くの手作りおもちゃのアイデアを頂いた。牛乳パックの椅子や机、ビール瓶のふたを使った楽器、または残り布からつくる小物入れなど。ほとんどがタイでも簡単に手に入るが、考えても見なかった使用方法に驚かされた。

3. 子どもに関して

- ▶ 保育所、幼稚園、小・中学校などで日本の子どもたちと交流する機会を得た。いつもの自分の活動が言葉も文化も違う子どもたちにどう受け止められるのかと不安もあった。しかし、回を重ねるごとに慣れ

てきた。小学校の低学年までは私たちに対して素直に好奇心をぶつけてくる。高学年になってくると、恥ずかしさが先にたつてなかなか積極的には表現できない。図書館に来る子どもたちは、保育所に通う年齢から高校生まで。年齢ごとの子どもたちの持つ特徴はタイも日本も同じである。

- ▶ タイの子どもたちに人気の絵本を持ってきてタイ語で披露をした。絵をじっくり見つめて反応しているのが分かり、どんどん参加してもらえるように工夫した。最後には、しっかりリズムが生まれ、私自身も心から楽しむ事ができた。子どもたちにとって言葉は重要ではなく、それを補う感性や想像力を内に秘めていることを改めて信じることになった。

【最後に】

日本のひとの暮らしを学ぶことができ本当にうれしかったです。これほど皆さんが心を込めて私たちのことを受け入れてくれるとは思いませんでした。初めての外国で不安を感じることなく過ごせたのは皆さんのおかげです。

また、15年間引き続きこの研修事業に参加させて頂いて、シーカアジア財団を代表して感謝を申し上げます。現在の当財団スタッフの多くが大阪で研修をさせて頂きました。そのことが大きな自信につながっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

⑤2008年招聘研修予定

今年の招聘研修は、7月の実施することとし、7月5日～19日に実施する予定です。また、例年どおりタイからお二人お招きするとともに、引き続きカンボジアからお二人お招きする予定です。

4. スタディツアーの経過と2008年度の実施に向けて

2007年のスタディツアーは、タイコース（北タイ：山岳少数民族モン族サンティスック村）とカンボジアコースで募集しましたが、参加希望者の大半がカンボジアを希望されたことから、12名の参加、カンボジアコースのみで実施しました。

2007スタディツアー参加者名簿（敬称略）

氏名	所属	職場・学校
泉井直哉	自治労大阪富田林ユニオン	富田林市役所
中東大輔	部落解放同盟大阪府連青年部	大阪市教育振興公社
後藤梓	自治労大阪府本部泉南市職	高校生
小田晃之	自治労大阪府本部	大阪府職・吹田保健所
杉谷まり	日教組・南河内教組	大学生
阪口学	部落解放同盟大阪府連	
西山昭博	大阪市従民生支部	大阪市市民局
石井高大	大阪市従民生支部	大阪市健康福祉局
山下晋平	子どもツアー2回参加	高校生
田中泰史	大阪市職民生支部	大阪市立児童院
室谷雅子	自治労大阪府本部泉南市	泉南市立鳴滝第2保育所
松尾純代	大阪マイペンライ	子育ていろいろ相談センター

2007スタディツアー全体日程

12月	内 容
16日（日）	9：30 関西空港集合
	11：10 関西空港発
	15：40 バンコク（スアナプーム空港）着 乗り継ぎ
	18：30 バンコク発 19：40 プノンペン着 SVAカンボジア事務所スタッフと合流
	ホテル泊
17日（月）	8：00 SVAカンボジア事務所訪問 事業説明
	9：00 アンドング・スラム見学
	9：45 移動図書館活動・交流
	13：30 虐殺博物館見学
	14：30 コンボントムへ出発
	17：30 コンボントム着
	18：30 夕食会
	ホテル泊

18日(火)	7:30 ホテル発 8:30 スマオイン小学校着 学校見学、移動図書館活動、子どもと交流 12:00 昼食 (15:35 松尾さんがラオスへ移動) 米の収穫 ポストファミリーの家で木を植える 夕食交流会 ホームステイ
19日(水)	7:00 シュムリアップへ出発 9:00 シュムリアップ着 アンコール遺跡群見学 ホテル泊
20日(木)	9:50 シュムリアップ発 10:45 バンコク着 松尾さんと合流 午後自由時間 SVA・DPFメンバーと夕食会 ホテル泊
21日(金)	バンコク・クロントイ SVA事務所訪問、DPF事務所訪問 事業の説明、地区内見学、チュアパーン地区、スアンブルー地区見学 まとめの会議・意見交換 ホテル泊
22日(土)	バンコク フリー バンコク発 23:59
23日(日)	関空着 早朝(7:30) 解散

④ 2008年度の取り組み

SVAと訪問先・日程を検討しながら、2008年度スタディツアーについて引き続き取り組むこととします。また、記念事業のモニタリングツアーとして位置付け、研修事業の講師とともにタイの農村。スラムの図書館・保育園視察を実施します。

5 こどもスタディツアーのとりのくみ

(1) 2007年度の取り組み

タイの北部、モン族の人々の暮らすセンサイ村。この自然と共存する村と日本の子どもたちが出会う旅。それが大阪マイペンライ子どもスタディツアーです。1998年に第1回を実施し、2007年度は4名の参加で実施しました。

事前学習会 第1回 第2回 絵本作業

日程 7月22日(日)～29日(日)

交流先 北タイ パヤオ センサイ村 サンティスック村

参加者 4名 同行 SVA松尾久美さん

07子どもツアー参加名簿(敬称略)

氏名	氏名
山下 晋平	室谷 太紀
田中 寛子	福原 鈴菜
松尾 久美 (SVAタイランドスタッフ)	

子どもたちの感想文

「今年一番強烈な1週間・・・来年はうどんつくる約束??」

山下晋平

スタディツアー2回目の参加ということで、前回よりも気楽に行けるな～と浮かれていたら、関空からバンコクまで子ども達だけで行かないといけないと聞いて、浮かれ気分は半減しました。その前に学校の先生から、「バンコクの空港がとても広がっていて、迷子になったら取り返しがつかないよ」とプレッシャーをかけられていたので余計不安に(かなりの方向音痴なので)。

まあ説明会の段階で、1時間遅刻していたので誰も俺には期待してなかったと思うけど・・・(苦笑)一緒に行ったみんなの協力を得て、無事バンコクに到着そして久美さんとも合流できました。

今回一番印象に残った所はバンコクのチュアパーンスラムです。

去年と同じところに行って、歩いて見て回ってから(去年よりも細かく見て回りました)図書館でそこに住んでる子達と遊びました。でも1年経っても目に見えるところでは、なにひとつ変化が見られなくてショックでした。1年とか2年とかの単位では変化が無いのはわかってたつもりなんですけど、やっぱりショックで

す。スラムに住んでいる人の主な仕事は日雇い労働で、バンコクが定める最低賃金191バーツ(×4で日本円です)で仕事をしていると聞きました。この191バーツという数字もほかの地方と比べるとかなり上のほうみたいです。この最低賃金も会社によっては守られていなくて、苦情を言いに行くと「じゃ明日から来なくてもいい」とか「お前の代わりはたくさんいるぞ」などなど・・・この辺は日本とも変わらんかな?でも立ち退き問題など、けっこう崖っぷちのはずなんやけど、歩いてても緊迫感というかドキドキ感はありませんでした。この辺がタイっぽいところかな?

今年感じたことは、タイに来てスラム以外の所、シャンティ寮とかホームスティとかほとんどが楽しいんやけど、スラムとかタイの現実を見せつけられる場所に行って話を聴く、という所がこのツアーにとってとても重要なんじゃないかな?と感じました。うまく説明できていませんが、こういう風に考えながら歩いてました。

1年ぶりのサンティスック村。交流会では、そこの村の小中学校の校長先生が変わって(最近は毎年のように変わってるみたい。その理由は、なるべく若いときに校長になっておくとか今後出世する時に便利だから。過疎地域の村や教師不足の村などに行ってポストについておく。そこで1~2年働いて経歴を残して戻っていくそうです・・・。今回の人は女性で、エリートっぽい人でしたよ)交流会が公式行事みたいになっていました。そこでスタディーツアーを代表して俺が挨拶をしないとイケない状況に・・・。なんとかこなしましたが、日本語からタイ語からモン語への「二重通訳」!!お~大企業のエライさんになった気分??

今年は天気がよくてずっと晴れていたのが農作業にも行きました。田んぼまで歩いて1時間半くらい、それもすごい山道を登ったり下ったり、途中で3回くらい休憩を挟んでなんとか到着した時の頂上の景色(田んぼは山の上のてっぺんにありました)はすごくきれいで息を呑んでしまいました。太紀君(以下たいき)の家以外は同じ田んぼに行きました。苦しい道中は寛子さん(ちか)鈴菜さん(すず)とブツツ文句を言いながら(主にすずと)歩いてました。彼女たちがいなければ俺は爆発してたと思います(ホンマにしんどかった)。

最後の朝は、ゲストハウスに集まってお別れ会?をしました。そこにはホームスティ先の家族の人が集まって今回ホームスティした時の感想を一言ずつ言い合っただけですが、感想を言う前にお母さん達が泣き崩れてしまいました。普段映画を観ても涙を流したことの無い俺ですが、今回ばかりはヤバかったです。声が上がってしまい、しっかり感想を言おうと思ったのですが、考えてたことの半分くらいしか言葉に出せませんでした。2泊3日で言葉もほとんど通じない状況でも、人間は何かを感じ取って涙を流せる。サンティスックに行くたびに、お母さんが増えます・・・(笑)。この村に流れている空気というか、雰囲気というか、匂いというか大好きです。坂が多いとか、田んぼまで遠すぎるとか、水溜りばかりとか、結構しんどい部分もあるんやけど、でもまたこの村の空気を感ぜたいという気持ちが、そのほかのしんどい部分を消し去ってくれる気がします。

シャンティ寮の交流会では、モンの伝統楽器であるショウの音に聴き惚れてしまいました。交流会のあとは、大撮影会の始まり・・・30分くらい撮りまくっていたと思います。去年はこんなに盛り上がりませんでしたと思うんやけど??ちなみに寮生は急にテスト週間入ってしまったので、このあとずっと勉強していました。次の日も朝5時に起きて勉強しました。テスト期間中のため学校訪問がなくなったので、12パターナ村という所に行きました。そこの村の保育所に訪問しました。スタディーツアーでは行ったことがない村だったので絵本も全然ありませんでした。なのでここに持って行った絵本の半分を寄付しました。絵本の寄付第一号として名を刻めて嬉しかったです。子ども達もすごく喜んでくれました。この村から帰るときには、トラックの荷台に乗って寮まで帰りました。めちゃめちゃ景色が良くて、とても気持ちよかったです。絶対大阪じゃできひんやろな~。

去年もそうでしたが、日本に戻ってきてしばらくはさびしい気分です。

今年の一週間はアツという間に過ぎてしまって、夢を見てみたい感覚でした。ちなみに去年一週間がとてもゆっくり感じて田舎に帰った気分でした。2007年に入って半分以上が過ぎて、自分の回りにも変化があって、楽しいこと、しんどいこと、いろいろなことがあって、たぶんこれからもいろいろな事が起こるんやろうと思います。でも今年を振り返ったときに一番強烈に残ってるものはタイに行ったことで、ここに書いたことも書かなかつたことも、ほとんどのことをパッと思い出して話すことができる自信があります。それくらい強烈な一週間でした。

村での挨拶を一生懸命考えてんのに、クスクス笑い出す人がいたり。バンコクのホテルでベッドを壊す人がいたり。お土産のパンツを買うために、ショッピングセンターを一緒に走り回ったり。今年は(も?)一緒に行ったメンバーの個性が強くて、とても楽しかったです。そのままの自分でいても受け止めてくれる様な方達だったので、肩の力が抜けて、とても居心地がよかったです。

来年はガランさんと(シャンティ寮の寮長兼コーディネーター。今年はキャラがちがってカッコよかったです)うどんを作ると約束してしまったので、なんとか時間を作ってまた行きたいと思います。今年もたくさんの素敵な出会いがあって、またタイのことが好きになってしまいました・・・。

タイのツアーを終えて—「感じたことを・・はなすことから・・」

田中寛子

まず、私は行く前にすごく偏見を持っていました。友達や、TVなどで「人身売買」の話題が出たり、「麻薬密売」の話が出ていて、私自身の心の中で、「そういう国なんやろな・・・」という考えがありました。でも本当は、心の豊かな人達の多い国だと旅の中で感じました。

確かに、そういう犯罪が残っている所もあると思います。でも、そういう犯罪をしなければいけない環境、そういう考えに至ってしまう環境が問題なのだ、と思いました。

これは多分、どこの国にも当てはまる事だと思います。私は一部の人しか見ていません。けど、その人達はとても一生懸命に生活を過ごしている人達でした。タイの人達といると、とってもまったりできてすごく心が満たされました。そして偏見を持っていた自分が恥ずかしくなりました。

私個人では、財力も無いし、きっと何も出来ません。でも偏見を持っている人に「それは、そうじゃないんだよ」と私が行って見てきた事、感じた事はね・・・」とはなすことが出来ます。

まず、そこから手伝えたらなあ、と思いました。

もっとタイにいたい知りたいと思った

室谷太紀

タイのメンバーと1番最初に会った時はずっと話をしなくて少し不安でした。2回目はみんなで一生懸命に絵本作りをして本当にタイに行くんだと実感しました。当日はどんな所なのか楽しみで飛行機に乗りました。

松尾久美さんと初めてバンコクで会って一緒にチェンマイについてタクシーでホテルに着いて夕飯を食べ、大きな市場でお土産・置物・かんざし・スプーンなど1番びっくりしたのは海賊版でDVDが普通に売っていることでした。ホテルに帰ると疲れてすぐに寝てしまいました。

朝からタイのラーメンを食べ、日本のラーメンと少し違っていましたがとてもおいしかったです。

シャンティ寮に着いて寮生さんとあいさつしてから農作業をしました。作業は畑の水漏れがあるところを潰して畑から土をとって水漏れ箇所を直す事でした。その時綺麗ではっきりとした全部の形が見えた虹を見るのは初めてで感動しました。ご飯は口がヒリヒリして結構辛かったです。

シャンティ寮の子達はテスト期間中でみんなよく勉強をしていました。僕はテスト期間中でもほとんど勉強しないので頑張っているんだと思いました。卓球もしましたがあまりの僕の下手さにみんな大笑いでした。

タイの保育所に行き子供達と折り紙で手裏剣を作ったり鬼ごっこをしたりして遊びました。魚のフライがおいしくてたくさん食べるとみんなが喜んでくれたので、余計いっぱい食べてしまいました。その後隣にある図書館に行き日本から持って行った絵本を贈呈しました。僕がシールを貼った絵本がみんなに読んでもらえるのがうれしかったです。

シャンティ寮に戻ってお別れ会の時、伝統の踊りを見せてもらいとても綺麗でした。僕はその時に空手の型と石の板割をしました。やっちはみたものの結構痛くて顔がひきつっていましたが、無事に終わってほっとしました。○×ゲームも喜んで参加してくれたのでうれしかったです。次の日も新しい保育所に行きました。その保育所には何もなくて絵本を持っていくとメチャメチャ喜んでくれて自分達のところにはたくさん物が溢れるくらいたくさんあって贅沢していると感じました。

それから山に登りセンサイ村に行きました。まず初めに学校の運動場に集まり土砂崩れの避難訓練をしました。土砂崩れで逃げ遅れた人がいたと役所の人がいたと話してくれリアルに感じました。自分のホームステイ先には僕と同じ歳のトン君がいて仲良くなりました。日本からのお土産で僕のおばあちゃんが作った貝の根付けを渡すととっても喜んでくれました。

その日の晩御飯が衝撃的で生まれて初めてリスの肉を食べました。おいしかったのでたくさん食べました。トン君のお父さんはうでのたつ猟師で山でリスや熊など銃で捕っていて、熊のツメの入ったお酒があるのも驚きました。次の日は稲植えに行きました。一歩間違えば死んでしまう所を通過して田んぼに着きました。そんな危ない所を通過していかないといけない所で仕事をしているのを知って日本は本当に恵まれていると思いました。

その後、トンちゃんと近くの川に行き水切りやつりをして遊びました。1、2匹は釣れましたがモリを使って魚を捕るにはすごく難しかったです。1匹だけ突けて良かったです。

本当に日本にない自然がいっぱいだと思いました。

最後に市内にはスラム街があり、貧富の差が激しく田舎から出てきた人達が住んでいる所で、日雇などをして暮らしています。薬や麻薬が蔓延している事を知り、タイにはいろいろ解決していかないといけない事もあるんだなと感じました。もっとタイにいたい知りたいと思いました。次はムエタイもチャレンジしてみたいです。みんなにいろいろと迷惑かけてすいませんでした。いろんな人と会えて楽しかったです。本当にありがとうございました。

シャンティ寮、すごくあたたかくて、とても笑顔があふれているみんなと

福原鈴菜

私は、7月22日～7月29日までマイペンライのツアーで、タイに行ってきました。メンバーは4人で、男子が2人、女子が2人(私をふくめて)と通訳してくれる松尾久美さんでした。

私からしたら、3人とも年上で、最初の学習会もすごく緊張しました。

最初の日は、ホテルに泊まって、次の日の朝にはパヤオ県ポン郡シャンティ寮にむけて出発しました。シャンティ寮では、学生の人たちに自己紹介をしてから、夕飯の手伝いをしました。手伝いが終わって、みんな外で遊んだりギターで歌を歌っている人もいました。

その後、夕飯を食べて女の子が泊まる所に連れて行ってくれました。そこでびっくりしたのは、ベットにカヤというものがありました。カヤは虫がこないようにするためにあるそうです。私はときどき雑貨屋さんで見たりしますが実際そこで寝るのははじめてでどれもこれもいい体験になりました。その後は、事務所でシャワーを浴びてのんびりしていました。

次の日の朝5時に突然かねが鳴ったのでびっくりして、起きてみると、みんなカヤをあげて外に行っているのでも私も行ってみると、朝の5時からな・ん・とみんな体操をしているのです！その日はパラパラと雨が降っているので私は、朝から気がとおくなりました。体操が終わって寮に戻ると、次はみんな勉強をするのです！?(たぶんテスト期間だと思います)それから少しすると、またかねが鳴ってみんなと朝ご飯を食べました。

みんなが学校に行くとセンサイ村の幼稚園を訪問して、子ども達に折り紙を折ってあげていたんだけど、小さい子だったのでほとんど自分で作ったためとても疲れました。そのあとは、子ども達と別れてから、12パタナー村に行くことになりました(学校)。

この12パタナー村は、マイペンライでまだ、一度も行ったことがなくて、今年がはじめてだそうです。学校につくとまず、自己紹介をして農作業を見学に行きました。橋や石段を積んだキレイな川、ほかにもいろいろ「え～!!」と思うものがたくさんありました。見学が終って近くの幼稚園に絵本を届けるとみんなその絵本が、気に入ったみたいで絵本は大人気でした。そのとき思ったのが日本の常識となっているものが、タイでは、すごくありがたいことなんだなあ～と思いました。

その日の夜は夕飯を食べてから、お別れ交流会があって男子寮の下にある会議室でやることになっていて、私たちは日本の常識〇×クイズとメンバーの1人は空手のかたと、現地で探したかわらをわりました。シャンティ寮の人たちはモン族の衣装だけど、タイの踊りをしてくれました(笛を吹きながらやっている人たちもいました)。すごく楽しいお別れ会でした。

事務所でシャワーをして、女子寮に戻ると1人の女の子が、「写真をこうかんして！」と言ってくれたので「いいよ」といって交換したんだけど、私になにかと気をつかってくれて、私も好きだった女の子には、写真をあげることができなかったの(写真が1枚しかなかったから)もし来年来る機会があれば自分の写真をいっぱい持ってこようと思います!!

私がシャンティ寮で1番思い出に残ったのが、すごくあたたかくて、思いやりのある人たちで、とても笑顔があふれているそんなみんなでした!

次の日の朝は雨がザーザー降りだったので、昨夜お別れ交流会をした会議室で体操をして服を着ているとかねが鳴ったので朝ご飯を食べました。その後シャンティ寮の人たちと、お別れをしてみんなが学校に行くのをみとどけてから、車で2時間30分かかる(シャンティ寮から)少数民族モン族の村、サンスティック村へいきました。到着して少しゲストハウスで休憩してから、すぐ近くにある学校がリアルな土砂崩れの訓練をしていたので、私たちもいっしょに訓練をしました。なぜ私がリアルとつけたかということ、山を登っていると、な・ん・とそこには、死人のふりをした人がいたのです。しかも、絵の具を(赤色)頭から流して救急車を待っているのです!!さすがに私もこれには、大爆笑してしまいました。でもこの日は、日ががんがん照りつけていたので、その死人のふりをした人も汗がだくだくで大変だったと思います。

その後はゲストハウスにもどって、ホームスティ先の人がむかえに来てくれるはずでしたが、農作業が大変でこれないということで、つりをすることになりました。

私はてっきりつりざおがあるんだと思っていましたが、実はつりざおを作ってくれるということで、外を見てみると、そこには小学2年生の男の子がつりざおを作っていました!最初は「え～!？」と思い本当にびっくりしました。でも私は心のどこかで「本当に魚が釣れるのかなあ～?」と思っていましたがそれをくつがえすように、なんとたくさんの魚が釣れました。つりに夢中になっているとホームスティ先の子も達がむかえにきて、荷物を持って家までつれて行ってくれました。

私がホームスティした家族は9人兄弟なんだけど、そのうちの6人が、成長したのでバンコクにでかせぎに行っていて、私が行ったときは3人だけでした。大学生のお兄ちゃんと、私と1番年がちかい中学2年生の女の子で名前はスリーちゃんニックネームがインちゃんです。それと最後に年はわからないんだけど、私より小さい男の子が1人でした。両親は畑が遠いところにあるので、畑の近くに家を建てて寝泊まりしてい

るそうです。両親が家にいないときは、インが朝 4 時起きで洗濯と、お皿洗いと、鳥などにえさをあげる仕事を 1 人でしているそうです。たとえ日本人でも朝 4 時起きは大変だと思います。

ホームステイ先の家は、ゆかは上が何度もふまれて固くなっていてベッドは小さな小部屋みたいなところにふとんがひいてありました。シャンティ寮と、同じでそのなかにもカヤがありました。それから夕飯を食べて水浴びをするところまでいきました。そこにはトイレもあって場所がけっこう広いので水浴びをするならじゅうぶんな場所でしたが、水浴びといっても、もちろんシャワーもありませんし、ただおけに水が入っているだけでした。体かけると、とつても、冷たくてたまりませんでした。それでも、なんとかやりぬいてインと交代して外で待っていました。

次の日は起床して、着替えるとすぐに朝ご飯を食べて、農業体験をすることになりました。それで必要なものをインのリュックサックに入れてもらって途中にお菓子屋さんがあったのでインがそこでお菓子をかいました。その後メンバーと一緒に畑まで行きましたが、その道のりはすごく長くて、とくに坂道が多かったです！畑は山の頂上にあつて少し休憩を取りながら上に、登って行きました。

畑についた時 1 番に思ったことは、そこから見える景色が、すごくきれいでした。登るのに苦労はしたけれど、この一瞬で登ってきてよかったと、思いました。その後は少し休憩をしてから、畑の稲をきらないように、雑草かりをしました。そして、雑草かりが終わつて畑から家に帰る途中にダムがあつて、そこでは男の子たちが、うきを使って遊んでいました。それから各自家に帰つて昼ご飯を食べ終わつたら、ゲストハウスで待ち合わせをして、昨日つりをした川で遊ぼうということになって、昼ご飯を食べて、途中にちかと合流して、ゲストハウスまで行きました。でもいくらまっても晋平がこないの、先に川に行きました。川で遊んでいると、久美さんが来てちょうどイン達も今日の夜に行われる、お別れ交流会の準備をしなくてはならないので、いったん解散しました。

4 時 30 分くらいになると、インたちが向かえに来てくれて、家に戻つたら、インが衣装を出してくれて、そこで衣装を着せてもらいました。そして、ちかと大紀(メンバー)の家でも同じことをして、ゲストハウスまで行きました。休憩をして学校まで行くと、もう食事会の準備はできていたので、シートに座っていると、この学校の校長先生が来て、少しすると、校長先生と村長さんのあいさつを聞いている間に色々な料理が出てきてとてもおいしそうでした。

私たちは、ゲスト席の方へ行って待っていると、私がホームステイした家のお母さんが来てくれて、そのとき、すごくほつしました。少し話しをしていると、みんな先にご飯を食べていたので、私も先にご飯を食べました。料理はとつてもおいしかったです。食事会が終わると出し物を交代(マイペンライ、タイの人)ですることになりました。最初はタイの人たちが踊りをしてくれて、次に大紀が空手のかたを教えるのと、かわらわりをして、特に空手のかたが大人気でした。それからタイの人が笛を吹きながら踊りをしてくれて、シャンティ寮の人達と、同じ踊りだったんだけど、人数が増えていて「大人数でも、できるんだなあ〜」と、思いました。踊りが終わる。○×クイズをして村長さんと校長先生の終わりのあいさつがあつてそれが終わると家に帰りました。

次の日家族の人とお別れをして、東に乗つてシャンティ寮に戻つて、荷物をまとめてチェンライの空港にいて、飛行機でバンコクのスアナブーム空港まで行きました。空港からホテルに移動して、ホテルチェックイン後に夕飯を食べました。

最終日は、チュアパーンスラムに訪問しました。ここのスラムは、線路の近くにあつて、家と言うよりいすや机パラソルなどを置いてありました。私はこの人達がなぜ、この生活をしているのかわからないけれども、私はその事を日本人達にも知つてほしいと思いました。そのあとは夕飯を食べて、空港にいて久美さんとお別れをしてバンコク発の飛行機に乗つて日本に帰りました。

日本をたつときはすごく不安だったのに、反対にタイを離れる時はすごくさみしなあ〜と感じました。

私がタイに行って感動して学んだことは、ホームステイでインが 1 人で家事をやっていることにすごく感動して私も、もう少し自分のできることを、がんばろうかなと思いました。

(2) 2008 年度の取り組み

学校の夏休みの時期に実施することとし、7 月 27 日から 8 月 3 日の日程で募集を開始します。

6 絵本プロジェクトのとりくみ

定着した 5ヶ所の拠点での翻訳絵本作りでは、ボランティアの参加者の数は決して多くありませんが着実に、そして楽しんで、作業を続けています。また、参加者の中からスタディツアーへ参加されたり、逆にツアー参加を機に絵本作りにこられたりと、いずれも子どもたちに絵本を！という気持ちをいただいていると思います。このように、多くの皆様のご協力を得て進めている絵本プロジェクトの成果は確実に現地に届いています。

自治労府本部でのボランティアによる作業をはじめ、5ヶ所の拠点での翻訳絵本作り、多くのボ

ランティアによって作られた翻訳絵本、国際理解教育の一環として取り組まれている学校での翻訳絵本作りや市民講座などによって作られた翻訳絵本は、7月の『こどもスタディツアー』のメンバーが、そして、12月スタディツアーで、カンボジア・タイを訪れ、現地の様子を肌で感じ、翻訳絵本を自らの手で届けてきました。

多くの皆様のご協力を得て進めている絵本プロジェクトの成果は確実に現地に届いています。今後も絵本を通じて人と人がつながり、子どもたちにとっての本当の支援となるよう活動を進めていきたいと思えます。

[ボランティアグループ]

自治労大阪府本部（大阪マイペンライ） 毎月第3木曜日 P L P 会館
（自治労大阪市従業員労働組合民生支部、一般市民、高校生などの皆さんが参加しています）
「アンコー会」（浪速絵本グループ） 第2金曜日午後6時 谷町九丁目アベビル
マイペンライ茨木 カンボジアに絵本を送る富田林連絡会
マイペンライ兵庫 ポップあすか（飛鳥地区で絵本を作る会）
自治労大阪市職員労働組合北区役所支部 その他 たくさんのボランティアの方々による

7 アジアのNGO団体などとの連携したとりくみ

大阪マイペンライは日本やアジアのさまざまなNGO団体に協力いただき、また、連携して取り組みを進めてきました。これからも、ともに大阪とアジアの交流が深まることをめざして取り組みを進めます。

(1) スアンプルー地区の図書館・保育園の再建

2004年4月の大火で焼失したタイ・バンコクのスアンプルー地区の図書館・保育園が長年の住民やシーカーアジア財団の努力で再建され、2月24日開園式が行われました。

開園式では、保育園児・青少年による歓迎の踊りが披露されたあと、シーカーアジア財団のアルニー事務局長より経緯の説明が行われ、この施設が子どもたちだけでなく、地区の人々のセンターとしての役割を果たしているとの話がありました。引き続いて来賓からの祝辞の後プラティープ理事長より感謝の辞が述べられ、テープカットの後施設内の巡覧が行われました。

スアンプルー地区の大火の後の再建については、シーカーアジア財団は住民委員会とともに復興に向けた努力を行い、元の人と人のつながり豊かな街の再建に向け、住民の意見を取り入れた街づくりをめざしました。その結果、地区をセルフヘルプ住宅地区と集合住宅地区に分けて再建する計画が進められ、財団は住民と共に協同組合方式で政府から住宅資金を借りて、2～3階建ての家を建てて、ローンを返済しながら生活していくセルフヘルプ住宅の建設を進めました。既に住宅の大半は建設が終了し、多くの住民が開園式にも出席していました。

大阪マイペンライは大火の被害の復興のために募金を呼びかけ、多くの団体・個人の協力をいただき、SVAを通じてシーカーアジア財団に贈りました。

8 会員拡大のとりくみ、財政確立のとりくみ

(1) 会員の状況

大阪マイペンライは解放同盟大阪府連・大阪府教組・自治労大阪の組織的協力を得つつ、団体会員、個人会員の協力、自主的な参加によって15年間の取り組みを進めてきました。また、財政的にもこれらの組織・個人に支えられて活動を進めることができました。今後も、組織的な協力を得つつ、個人の自主的な参加という、大阪マイペンライ的な活動スタイルを維持しながら、進めていくこととします。

会の現状としては、2008年3月現在の個人会員は128名、団体会員は23団体と、現状維持にとどまっており、会員拡大の取り組みを進めます。

(2) 財政

繰越金と預り金を除いた収入に対して、会費の占める割合は32%、セミナー等への参加費が21%、クラフト売上が20%となっています。会費は安定した財政基盤であり、会員の拡大を通じて、財政的な支えの拡充を図っていかねばなりません。2003年度からクラフト売上金を一般収入に繰り入れることとしましたので、さまざまな機会を通じてクラフト販売による収入の増をめざします。

(3) 組織基盤の確立

引き続き3団体をはじめとした団体会員との連携、100名を超える個人会員との連携を強め、会の

基盤の充実に努めることとします。その延長線上に、特定非営利法人（NPO）化に向けた準備を進めます。

（４）通信の発行

07年6月27日 No. 59 ■第15回総会を開催 ■会費納入のお願い ■子どもツアーに4名参加 ■サワディ基金2006年度奨学生 ■鎌倉さんの記念講演録 ■共生共走マラソンに出店
07年7月29日 No. 60 ■招聘研修スタッフ決まる ■子どもツアー4名帰国 ■サワディ基金06年度奨学生からの手紙 ■アジア子ども文化祭中止 ■招聘研修日程の概要 ■会費納入のお願い
07年9月1日 No. 61 ■招聘研修スタッフ来日 ■子どもツアー帰国 ■2007年大阪マイペンライ招聘ゲストプロフィールと研修希望について ■招聘研修の詳細日程 ■モン族刺しゅうカレンダー見本届きました ■会費納入のお願い
07年9月29日 No. 62 ■招聘研修終わる ■モン族刺しゅうカレンダーあっせん中 ■子どもツアーわくわく体験記 ■会費納入のお願い
07年10月15日 No. 63 ■スタディツアー募集 ■招聘研修を終えて ■会費納入のお願い
07年12月25日 No. 64 ■15周年記念事業で助成金申請 ■スタディツアー無事帰国 ■会費納入のお願い ■スタディツアー参加者名簿 ■絵本ボランティアからのおたより ■絵本を届けました
08年3月1日 No. 65 ■15周年記念事業寄付金募集 ■スアンブルー地区図書館・保育園開園 ■カンボジア・ラオス・タイへ手作り絵本作家と出逢う旅 ■シーカアジア財団の事業の背景

（５）クラフトの販売

モン族のししゅうカレンダーを3つの団体会員、個人会員の協力を得て、600枚を販売しました。

モン族の民族衣装は、青で染め抜いたろうけつ染めの生地の上に、赤を基調としたカラフルな糸で刺繍を施したもので2cmほどのプリーツのスカートになります。母親たちは女の子が生まれると、民族衣装の作成にかかり、5～6歳になるとその民族衣装で晴の日を装います。また女の子は5～6歳から刺繍の技術を磨き、自らの民族衣装を作る力を身に付けていくのです。

2007年のカレンダーは、モン族の女性が時間をかけ作り上げた重厚なスカートを、カレンダーに再活用しました。

また、引き続きタイ・カンボジアのクラフトを販売しています。

9 15周年記念事業について

（１）とりくみの日程

- ① 検討委員会の開催
- ② 国際ボランティア貯金助成金への申請（2007年11月27日）
- ③ 同助成金の決定（2008年3月13日）
- ④ 事業実施の具体的検討（助成金の可否も含め）

（２）アジア保育教育交流推進実行委員会15周年記念事業

「タイのスラム・農村の保育園等スタッフ研修支援事業 事業計画」

1 目的

タイ国内のスラム地区および少数民族の居住地域の保育園および図書館における保育・教育・図書館事業の充実をめざす。そのために、現地のNGOと連携し、保育園・図書館スタッフへの研修事業の実施や研修機材の充実によってそのスキルアップを図る。また、子どもたちへの絵本や図書の提供の充実を目指して、図書コーナーの設置、絵本などの図書の充実、教材の提供などを目指す。

2 現地の状況

タイは東南アジアの中で経済的な発展を遂げているが、都市と農村の格差があり、また、大都市の中においてもスラム地区が存在しており、経済的な理由から子どもたちの教育・保育の機会、絵本などに接する機会が奪われています。そのような中で、子どもたちが幼い頃から友だちとあそびを共有し、想像力や思考力を積みあげるあそびの活動の場として保育園や図書館活動の提供が重要となっています。

3 全体の事業

- （１）現地のNGOと連携した保育士・図書館スタッフを対象とした研修事業の実施と機材の提供。
- （２）現地のNGOの運営する保育園への図書コーナーの設置。
- （３）現地NGOの運営する保育園、図書館への絵本・図書、教材の提供
- （４）研修の保育園・図書館での効果の検証
- （５）NGOスタッフの招聘研修による研修・交流
- （６）NGOとの継続した相互交流

これらの全体事業の中で、（１）から（４）について国際ボランティア貯金助成金制度への申請を行った。

4 事業の対象地域

- (1) 対象国 タイ王国
- (2) 地域 バンコク都内 スラム地区の31ヶ所の保育園
ターク県ターソンヤン郡の28ヶ所の保育園

5 実施時期

- (1) 第1回研修事業 2008年5月
- (2) 第2回研修事業 2008年10月
- (3) 検証事業 2008年12月

6 具体的な事業の内容

- (1) 保育士・図書館スタッフを対象とした研修事業(2回)

①研修の内容と講師の派遣

テーマ：子どもの育ち(生活とあそび)、子どもの遊び(手作りのおもちゃ、一緒に遊ぶ)、絵本の楽しさを感じる、絵本を語るとは、手作り絵本

講師：子どもの育ち・子どもの遊び 2名

絵本の楽しさを感じる・絵本を語るとは・手作り絵本 2名

②教材(絵本の材料)

折り紙、ケント紙、ボンド、廃材(牛乳パック・ペットボトル)、

③研修対象スタッフの移動、滞在経費への援助

実施場所：バンコク 研修参加者80名

実施場所：ターソンヤン郡 研修参加者70名

④現地NGOへの事前調整、研修会運営の委託

担当スタッフの人件費、移動経費、通訳費

- (2) 保育園への人材育成のための機材・教材の提供

音響機器(移動図書館での歌、民族舞踊、読み聞かせなどの共用)

パソコン、プロジェクター(研修機器)

絵本箱と絵本(バンコクの30ヶ所の保育園に配置)

- (3) 保育園への図書コーナーの設置

ターク県ターソンヤン郡およびバンコクのスラム地区の計2ヶ所の保育園に図書コーナーを設置する。

- (4) フォローアップおよびモニタリングツアー

講師・スタッフを2つの地域(バンコクおよびターソンヤン郡)に派遣し、保育園・図書館活動を視察して研修の効果を検証する。

バンコクの図書コーナー設置保育園を視察し、図書コーナー設置の効果について検証する。

- (5) NGOスタッフの招聘研修

対象地域の保育園や図書館などで働くスタッフを大阪に招聘し、研修・交流を行い、文化交流を進める。

(継続事業)

- (6) 継続した相互交流

大阪からの専門家をはじめとしたメンバーのスタディツアーを行い、相互の交流を深める。(継続事業)

7 日程

3月 助成金の交付決定

実行委員会での検討

4月7日 マイペンライ結成15周年記念日

5月 第1回研修(バンコク)

1日目 調整スタッフ事前入国・現地へ移動、準備作業

2日目～3日目 リーダー研修

4日目～6日目 保育士・図書館スタッフ研修

7日目 帰国

保育園への絵本の配布準備開始

6月 機器の購入・図書コーナー(バンコク)の設置準備開始

9月 図書コーナー(ターク県・ターソンヤン郡)の設置準備開始

10月 第2回研修(ターク県ターソンヤン郡)

1日目 調整スタッフ事前入国・現地へ移動、準備作業

2日目～3日目 リーダー研修

4日目～6日目 保育士・図書館スタッフ研修

7日目 帰国

12月 フォローアップおよびモニタリングツアー(スタディツアーと同時期)

図書コーナーの設置

- 1日目 入国・現地①へ移動
- 2日目 現地①の保育園・図書館視察
- 3日目 現地②へ移動
- 4日目 現地②の保育園・図書館視察
- 5日目 帰国

8 研修内容

タイ：幼稚園・図書館スタッフを対象とした保育・あそび研修

	主なテーマ	内 容	講 師
1	子どもの育ち (生活とあそび)	① 0・1・2歳 ② 3・4・5歳 ③ 学童期	松尾純代 徳永和美 (カウンセリング・スペース・リヴ) 合田由紀子 (はっぴいポケット)
2	子どものあそび	① 手作りのおもちゃ 廃材を使って (ペットボトル・牛乳パック) ② 一緒に楽しむ遊び	徳永和美 (カウンセリング・スペース・リヴ) 合田由紀子 (はっぴいポケット)
3	絵本の楽しさを感じる	絵本を読んでもらう	加藤啓子 (絵本いろいろの会)
4	絵本を語るとは	絵本を語る時の注意	
5	手作り絵本 (自分で絵本を作る)	絵本作り	

研修手順

- ・ 研修内容1は、バンコク・ターソンヤン群全体対象に行うが、2・3・4・5は、リーダー的スタッフと全体との2段階で実施する。
- ・ 全体で実施する前にリーダー的スタッフにすることで、リーダー的スタッフが全体研修において、サポート役を担うことにつながり、次の指導者になる機会となる。あわせて、共感する仲間がいることで全体に共感の輪が広がることとなる。

(3) 15周年記念事業特別会計の設置について

特別会計を設置し、「国際ボランティア貯金」配分金の収支管理を行います。

10 その他

(1) 構成団体のとりくみ

①自治労大阪府本部のミャンマー (ビルマ) 難民キャンプ支援事業

《ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプ事業の概要》 タイ西部のミャンマー (ビルマ) 国境にはミャンマー (ビルマ) の軍政を逃れた少数民族の人たちの難民キャンプが、山間部に点在しています。その数は約15万人に達しており、約20年にわたる難民生活を送っています。そこで生活する人々は祖国に帰ることを念願していますが、ミャンマー (ビルマ) 国内事情がそれを許さず、一方、キャンプを出ることもできない厳しい生活を送っています。

難民キャンプは国連の難民高等弁務官事務所 (UNHCR) がタイ政府とともに管理し、医療・教育・食料などそれぞれの分野のNGOが国連と連携し支援を行っています。SVAはメーソットに事務所を設置し、図書館事業による支援を実施しています。

SVAの支援は図書館の建設、スタッフの採用・養成、図書館資材・絵本などの供給で、図書館の存在はキャンプの人々から大きく評価されており、引き続き、新たな図書館の開設、既設図書館の維持、改善が課題となっています。

《自治労大阪府本部の事業》 自治労大阪府本部は結成50周年の記念事業の一環の国際交流事業として、このSVAミャンマー (ビルマ) 難民キャンプでの図書館事業への支援・協力を進めています。この事業は5年計画で、2005年度から事業が開始され、2006年3月にはメラマルアン難民キャンプに、自治労大阪府本部の支援で図書館が完成しました。さらに、難民キャンプの活動支援に活用するための四輪駆動車が贈呈されました。2006年以降、専門家を含むスタディツアー実施されています。

②自治労・大阪市職民生支部が3回目の短期招聘研修

11月19日 (月) 来日～日 (土) 帰国 招聘スタッフ サンティさん (SVAタイランド)

アジア保育・教育交流推進実行委員会申し合わせ（規約）

第1条（名称・事務所）

本会は、アジア保育・教育交流推進実行委員会（略称：大阪マイペンライ）と称し、事務所を大阪市浪速区久保吉1-6-12 大阪人権センター内に置く。

第2条（目的）

本会は、1億人もの学校に行けない子どもたちが存在し、乳幼児死亡率が高いアジア各国のスラムや農村の子どもたちのきびしい現実を直視し、国連子どもの権利条約の精神にのっとり、アジアの各地の民衆教育や児童福祉にかかわる人々との草の根交流とネットワークの形成をめざす。そして、これらの取り組みを通じて、アジア各地の学校や保育所をはじめ地域の教育・生活・福祉の環境を整備し、同時に日本の子どもたちがアジア市民として育まれるよう多文化共生の保育・教育の一層の推進をめざすことを目的とする。

第3条（会員）

本会は、会の趣旨に賛同する個人及び団体でもって組織する。本会に入会を希望するものは、会員の推薦を得て役員会に申し出て承認を得るものとする。

会員は、会費を納め、本会の目的達成に向け、それぞれの持ち場で創意工夫をこらし自発的に活動するものとする。

会費の納入が長期にわたり滞った場合は（2年以上）、会員継続の意志がないものと見なし、役員会の議決を経て会員名簿から削除し、脱会の手続きを行う。

第4条（会費）

本会の会費は、次の通りとする。

個人会費 年間1口 3000円

団体会費 年間1口 10000円

第5条（役員）

本会に代表、副代表、事務局長、事務局次長、幹事、運営委員などの役員を置く。役員は総会で選出する。

代表は本会を代表し、会を統括する。事務局長は本会の事務を統括し、日常業務を処理する。事務局次長は事務局長を補佐し、日常業務を分掌する。幹事のうち、1名は会計業務を分掌する。

第6条（会議及び組織）

本会の運営のため、総会、役員会、事務局会を設置する。

総会は役員会の決議を経て、代表が年1回以上招集し、事業計画、予算、役員などを決定する。

役員会は代表、副代表、事務局長、事務局次長で構成し、必要に応じて代表が招集し、本会の重要事項を処理する。

事務局は事務局長が統括し、日常業務を処理する。

第7条（活動）

本会の目的達成のために、次の活動を進める。

アジアの保育・教育関係者との相互交流に取り組む。また、アジア各地へのスタディツアーを企画・実行する。

アジアの保育・教育関係者を日本に招き、現職研修（保育・教育の理論、技能向上）事業に取り組む。

「サワディ基金」を設立し、農村やスラムの保育所、幼稚園で働きながら夜間専門学校に学んで、保母・教師の資格取得を目指す若者達への奨学金を支給し支援する。

機関誌「マイペンライ」などを定期発行する。

その他、目的達成に必要なことなら取り組む。

第8条（規約改正）

本会の規約は、総会において3分2以上の賛同を経て改正することができる。

第9条（財政・会計監査）

本会の財政は、会費、助成金、寄付金、その他でまかなう。

会計年度は4月1日から翌年の3月31日とする。

（付則）

この申し合わせは、1993年4月7日より施行する。

一部改正 1997年4月11日

一部改正 2003年6月10日

大阪マイペンライとは

1993年5月、部落解放同盟大阪府連、大阪府教組、自治労大阪府本部などの団体を母体に設立。アジア（特にタイ・カンボジア・ラオス）との保育・教育を通じた顔のみえる交流、お互いが学び合う関係を通じて、お互いの国の保育・教育活動の充実を図ることを目的としている。

当会の概要

【名称】アジア保育教育交流推進実行委員会（通称：大阪マイペンライ）

【所在地】大阪市浪速区久保吉1-6-12 大阪人権センター内（部落解放同盟大阪府連気付）

【TEL】072-645-7772

【FAX】072-645-7772

【代表者】森 みどり（大阪府議会議員）

【事務局長】稲葉貞夫（連絡先：090-3948-8372）

【設立時期】1993年5月

【会員数】個人会員 128名、団体会員 23団体

【年会費】個人会員 1口 3000円 団体会員 1口 10000円

【主な交流地域】タイ、カンボジア、ラオス

【主な交流・協力団体】シャンティ国際ボランティア会（SVA・日本）、シーカー・アジア財団（SAF・タイ）、

ドゥアン・プラティープ財団（DPF・タイ）

【通信】「マイペンライ通信」の発行（年4回、不定期、日本語、会員無料）

主な事業内容

（1）奨学生支援

奨学生支援の「サワディ基金」・・・NGOの職員で、農村やスラムの保育所・幼稚園・図書館などで働きながら、夜間の専門学校や大学などで学び、保育士・教師などの資格取得をめざす若者に奨学金（1人年間約4万5千円）を給付する。

（2）絵本プロジェクトの実施

日本語の絵本に各国語の翻訳文シールを貼ってNGOの保育園・図書館に贈る運動。今では大阪を中心に各地のボランティアグループが取り組んでいる。出来上がった絵本はスタディツアーの参加者が運ぶ。

（3）相互研修交流・招聘研修、スタディツアーの実施

現地スタッフを日本に招いての「招聘研修交流事業」（毎年夏7月）

大阪の各地の保育園・学校・図書館などで交流・見学。ホームステイの受け入れも。

タイ・カンボジア・ラオスへのスタディツアーの実施。（毎年冬12月）

2ないし3コースに分かれてのスタディツアー。現地の村でのホームステイ・交流。

（4）子どもスタディツアーの実施（毎年夏）

2001年7月には「自立をめざす子どもの国際交流事業」を実施。2008年度で第10回目となる。

（5）「マイペンライ通信」の発行（年5～6回、不定期、日本語、会員無料）

（6）多文化共生セミナーの実施。（年1回）

招聘研修生を招いてのセミナーの実施

（7）クラフト商品の販売

NGOと連携して現地で作られているクラフト商品、カレンダーの販売。その収益は当会の運営（招聘研修、奨学金など）に充当する。

（8）NGO団体との連携した取り組み

NGO団体の取り組みへの協力、緊急支援活動の実施。

要請に応え、「DPFの生き直しの学校支援」、「スアンプルー地区火災復興支援」、「スマトラ地震津波被害支援事業」などに取り組む。